

新宮山彦ぐるーぷ第1987回―2
東北地方への遠征(鳥海山・岩木山・八甲田山)登山「岩木山」

◇実施日：2018年08月26日(日)～29日(水)

◇参加者：川島 功、沖崎吉信、児嶋道夫、大江加予子、徳子、

畑林清子、生熊千満子、上村洋司・和美、生駒純子、

中前道康・余志子、松本 栄、中西陽子、樋口義也、

高階鈴子・美根子、奥村順夫、竹中卓治、三井幹雄、

野崎 肇、石橋哲郎・隆子、アラン・モス、椎木 堯・

照子。梶野照雄(28～29)。

添乗員：和歌山・新日本旅行 中西和子。

8月28日(火) 晴

ホテルを8時前に出発し国道7号線を走行し、碓ヶ関ICで東北道に入り大鰐弘前ICで降り、国道7号線を経て県道3号線沿いの岩木山神社でトイレ休憩。その後、県道3号線を走行し津軽岩木スカイラインに入る。岩木山8合目(1250m)のロープウェイリフト乗場まで69のつづら折りの道路になっているとの事。8合目から9合目迄、リフト利用者19名と歩いて登る人7名(椎木夫妻・竹中・三井・野崎・アラン・中西)に分れて登る。



車窓からの岩木山



岩木山神社参道



9合目迄歩く人

二人掛けロープウェイリフトは、約10分で9合目(1470m)のリフト乗降場に着く。



リフト利用者



9合目のリフト乗場



リフト乗場から下った鞍部が駐車場への登山道分岐である。駐車場から歩くと上り約40分。歩く人は健脚なので待たずに登る。これより岩山の登りで登りきり鞍部越えたと鳳鳴ヒュッテ(避難小屋)がある。昭和39年1月6日に百沢口より登った県立大館鳳鳴高校の学生が、猛吹雪で遭難し、彼らの御霊を鎮め再び悲劇が起こらない様にと、昭和49年9月に竣工。



岩木山を望む



リフト乗場と駐車場分岐



分岐からの登り

これよりで急傾斜の溶岩段差の「二のおみ坂」の登山道を右側通行で登り尾根上に出ると、程なく平坦な鞍部になり小休止。奥村君は、昨日の疲れもあり、この登りでリタイヤ。



リフト方向を記す岩

「二のおみ坂」を登る

平坦な尾根で小休止

「三のおみ坂」を登り、11時10分頃に、大きな溶岩に覆われた中央の窪みに岩木山山頂(一等三角点・1624.6m)がある。その横に四角錐の中に鐘がある。濃霧時等に鳴らすのであろう。山頂には避難小屋もある。岩木山神社奥宮の標石が立つ傍には、以前は社務所が在ったが、建設予定地の表示があった。岩木山神社奥宮のお札は買え求めようとしたがダメだった。



「三のおみ坂」を登る

一等三角点の岩木山山頂



岩木山神社奥宮



左側が社務所建設予定地



歩いて登った人(鐘前)



神社周りで昼食



児嶋喫茶・コーヒー



岩木山神社奥宮にて



下山する頃に雲が

八合目から歩いた人達は、約5分遅れて山頂に到着し、岩木山神社奥宮周りで昼食。児嶋喫茶も開店！ 昼食を終え12時前に下山すると、急に雲が漂って来て見通しが悪くなる。

鳳鳴ヒュッテで、梶野氏と合流する。梶野氏は本日青森空港に着きレンタカーを借りて、此処まで登って来られたので、これで東北遠征登山者27名が揃う。



「二のおみ坂」下り終え 二のおみ坂」を下る 鳳鳴ヒュッテにて



鳳鳴ヒュッテからの下り リフト乗場と8合目駐車場分岐

リフト乗場と8合目駐車場分岐で、人数確認。奥村君は、先に下山して鳥海山に登りリフト乗場で待機を確認する。

リフト利用者と歩いて下る人達に分かれる。歩いて下る人が5人(川島・中前夫妻・生熊・高階)増えて一緒に下山。8合目駐車場には、バスの端に梶野氏が借りたレンタカーも駐車している。



歩いた人達が到着 バスとレンタカー 中村商店売店に立寄る

国道3号線に戻り、岩木山神社へと向う。梶野氏は田舎館村の田圃アートを見てから、宿舎で合流すると別行動になる。途中、大江さん宅の長男のお嫁さんは、青森市内から嫁いでいる関係から、大江親子に遭うと共に「とうもろこし」がこの地の特産品で、これまで送って貰って美味しかった中村商店で待合せしているとの事から立寄る。

長男の奥さんの手配で茹で立てのトウモロコシが、全員に各1本差し入れて下さった。美味しく頂くが1本が大きいだけに、女性の方は食べかねている人もいる。又、商店から熟れて売物にならないと、りんご木箱満杯を無償提供して下さい。何人かは、土産にトウモロコシの宅配を頼んでおられた。

岩木山神社奥宮に参拝したが、社務所が無く記帳やお札等を買う為に、岩木山神社参拝に立寄る。

岩木山神社は、「お岩木さま」と呼ばれ濃漁業の守護神、津軽の開拓の神として親しまれてきている。社殿は「奥日光」と

も呼ばれ、本殿、拝殿、奥門等が重要文化財に指定されている。



岩木山神社参道

奥殿・拝殿

弘前ねぶた館内

弘前城の見事な桜の古木並木(桜は日本一?)を見て通り、傍の弘前ねぶた村に立寄る。青森は「ねぶた」、弘前は「ねぶた」と呼ぶそうです。「ねぶたの館」の見学や土産物店廻りで約1時間滞在後、宿泊先のアートホテル弘前シティに入る。

一旦、風呂に入った後、フロントに18時15分に集合し、タクシーで津軽三味線ライブ「あいや」の郷土料理店に行く。地元のマグロ・カジキの刺身・山菜等の郷土料理は、本当に美味しく、ビール・お酒と料理も追加注文する。



津軽三味線ライブ「あいや」での夕食

20時前から津軽三味線ライブが始まる。津軽三味線奏者は、A級チャンピオン3連覇の渋谷和生さんで、真近かで聞く津軽三味線のバチの迫力その音色の響きが、直に体に伝わり本当に感銘を受けた。

明日、八甲田山登山もあり20時半に終宴にしてホテル戻る。

行動タイム

ホテル大館7:50↓9:10岩木神社9:25↓津軽岩木スカイライン↓
10:008合目駐車場10:10↓リフト↓10:20リフト山頂(9合目)↓
10:30リフト・駐車場分岐↓10:40鳳鳴ヒュッテ↓11:00岩木山
(昼)11:55↓12:20鳳鳴ヒュッテ↓12:30リフト・駐車場分岐12:40
↓13:058合目駐車場13:15↓14:10中村商店14:20↓14:30岩木神
社14:40↓14:55ねぶた村16:00↓16:15アートホテル弘前シティ
18:20↓18:30津軽民謡「あいや」19:35↓20:50アートホテル(宿泊)
(記；川島、写真；野崎・大江徳・川島)

梶野氏の行動報告

伊丹空港発午前7時35分の青森行きに乗る。7時台の伊丹空港は出発便が多くて、預託手荷物と保安検査待ちで35分もかかってしまった。おまけに離陸の順番待ちで、実際に離陸したのは7時52分だった。青森までは順調な飛行で、9時12分に着陸、手荷物を受け取ったのは9時20分だった。

ターミナルビルすぐ横のレンタカー会社で車を受け取って走り出したのは9時50分になった。

岩木山まで順調に走るが、スピードを出している車はほとんどいなかったので、無理せず流れに乗って走る。途中で昼食を買いそびれ、空腹のまま岩木山スカイラインの駐車場に11時5分に到着した。

去年と同じ象潟合同バスの運転手に挨拶して、登り始めた時間を聞くと、山頂に到着している頃だったので急いで靴を履き替えてリフトで登った。



青森空港



正面は岩木山



リフトを降りて

リフトを降りてすぐに奥村さんが一人で降りてきた。足がけいれんしかけたのでここで降りるそうだ。10分弱で鳳鳴ヒュッテに到着。



鳳鳴ヒュッテで待つ



上村さんと合流



全員下山中

岩に腰かけて皆が降りてくるのを待つ。山頂はガスに覆われて見

えなくなっていた。10分ばかり座っていたが、集団で降りてくる姿は確認できなかった。登り始めた。50mほど上部まで行くと、降りてくる上村さんが見えたので登るのをやめて待機。



リフト乗り場分岐で



駐車場に到着



田舎館村役場

上村さんと合流後、鳳鳴ヒュッテ迄戻って全員の到着を待った。全員が揃いリフトと徒歩下山に分かれて駐車場へ戻った。



新設の展望デッキ



今年のテーマは「ローマの休日」



レンタカーが有るのでバスとは別行動、以前にも行った田舎館村のたんぼアートを見に行った。白、赤、黄、紫、橙の稲とつがるロマンを植えて収穫期に絵画が浮かび上がるように見えるもので、毎年絵柄が変わって観光の目玉になっている。



道の駅会場

今年は手塚治



道の駅の展望タワー



村役場に天守閣があり、以前はここに登って田んぼを見下ろしていたが、隣の屋上に展望デッキが新設されて、狭い天守閣へ登らなくてもよくなっていた。ちなみに3階の展望デッキ迄のエレベーターが300円、そこから天守閣までは階段だが200円が必要になった。

見終わって駐車場で村の職員と少し話す。稲を植える、刈り取りはボランティアに頼っているので、収支はトントンかちよつと黒字。展望デッキの設置や第2会場の道の駅に立てたタワーの償却がまだ。今年の「真実の口」は配色を間違えたようで色ずれしている。各地のたんぼアートに苗の提供や技術アドバイスをしている。などのお話を伺うことができた。

役場から道の駅までは10分ほど、こちらのたんぼアートは横長でカメラに収まり切れない。色の違う石を並べて描いた「小石アート」なるものが新しく作られていた。

観光を終えて弘前に急ぐ。駅前でレンタカーを返却、すぐ前のヨーカドーで明日の昼食を買いホテルを目指した。ヨーカドーからホテルまでは思っていたより距離があつて、ホテル到着は午後5時過ぎだった。

(記・梶野)



アトムを地上から



小石アート

誰だかわかりやすい

